



自ら考え 学びに向かう 子どもの育成

11月26日に、菊陽町教育委員会指定学力充実研究発表会を開催しました。本校は、令和元年度から「自ら考え 学びに向かう 子どもの育成」を目指して研究を進めてきました。

さらに今年度は、教育スローガン「チャレンジ！一歩先の武蔵ヶ丘北へ」の下、ICTを積極的・効果的に活用した学習活動の充実に力を注いできました。

当日は、多くの参観者の前で、タブレットなどを活用しながら、しっかり考え、自らの考えを構築し、はっきり発表する元気な子どもたちの姿がうかがえました。



時事問題について情報の収集・整理・まとめ・発表を継続する6年生

人権啓発標語 「関係ない そう思わず 考えよう」

武蔵ヶ丘中学校 1年 倉留 明日美

「命について」



ティーナとリムと

ぼくは、命について考えました。命はいろいろなものに宿っています。人間はもちろん動物にも大切な命があります。

ぼくの家は犬を3匹飼っています。名前はクリスとティーナといっています。2匹は夫婦です。リムという子どもが生まれて3匹の家族になりました。ミニチュアダックスフンドという犬で短い足と長い胴がとてもかわいいです。特にクリスは、ぼくが生まれた時から一緒にいるので大好きでした。

でも、2年前クリスは病気で死んでしまいました。死ぬ前の日はフラフラして足がもつれてトイレに行くのも大変そうでした。

お父さんが「もう、お別れかもね。」と言って、クリスをお風呂に入れてきれいにしてあげました。ぼくは、まだ信じられないような気持ちでクリスを見ていました。でも、次の日の朝、クリスは冷たくなっていました。

ぼくは、とても悲しくて涙がたくさん出ました。お別れの時が、こんなに悲しいなんて思いませんでした。クリスが骨になって帰ってきた時も、泣くのに精一杯で何も考えられませんでした。もっとたくさん遊んであげたらよかったと後悔しました。そんなぼくを見てお父さんが、「今そばにいる犬たちはもっと大切にせなたい。」と言ってくれました。

そして、ぼくはお父さんが言ったとおり今一緒にいる犬たちをたくさんかわいがってあげようと思えました。なぜなら、命にはかぎりがあることに気づいたからです。ゲームみたいいつまでも時間が無限にあるものではないと分かりました。そして、お別れの時にまた後悔するのはいやだと思いました。

だから、ぼくは3つのルールを決めました。まず1つ目は、毎日話しかけることです。学校に行く時は顔を見て、「行ってきます」、帰ってきた時は「ただいま。」と言って頭をなでます。

2つ目は、毎日散歩に行くことです。部活があつて

菊陽中学校 1年 今泉 颯斗

遅く帰ってきた時も、雨の日もお父さんと一緒に必ず散歩に行きます。

3つ目は、ブラッシングをすることです。犬が気持ち悪くならないようにていねいにブラッシングします。毎日ぼくに出来ることをして「大好きだよ。」と伝えます。

3つのルールを守ることが大変だと思う時もあるけど、クリスの写真を見るとがんばろうという気持ちがわいてきます。そばにいないでも、心の中で応援されているような気持ちになります。

今回クリスが亡くなった時のことを思い返すと家族には迷惑をかけたと思えました。毎日悲しくて弟たちが話しかけてきても無視したり冷たい態度をとったりしていました。心配してくれるお父さんとも話をせず、お母さんが作ってくれたご飯もあまり食べませんでした。そして、家族がどんなにぼくを心配しているかを考えもせずに自分の殻に閉じこもって自分勝手な態度でふるまっていました。だけど、3つのルールを決めて生活するなかで、ぼくは家族の思いやりに甘えていた事に気づきました。家族だから何も言わなくてもぼくの気持ちは分かってもらえると思っていました。だけど、ぼくの気持ちはぼくのものでした。伝えようとしなければ誰にも伝わりません。だから、これからは自分の思いや気持ちを言葉にしてちゃんと家族に伝えていこうと思います。そして、同時に家族がどういう思いでぼくに接してくれているかを考えて感謝の気持ちを忘れずにいようと決めました。

ぼくはこの3つのルールを守ってぼくの大切な家族を大事にしていきたいと思えます。

一人一人が自分の周りの人や動物を大切に思うことが命を大事にすることにつながると思えます。

(先生から)

クリスとお別れしなくてはならなかったつらい気持ちと、ティーナとリムに毎日精一杯愛情を伝える決意が伝わってきました。今回、クリスとお別れして、改めて自分の家族を見つめ、自分に対する家族の思いや家族に対しての自分の思いを考えたことは素晴らしいことです。このお互いを思いやる気持ちを大事にしてほしいと思えます。

短歌会

菊陽句会報

きくよう文芸

- | | | | |
|----------------|-------|-----------------|-------|
| 隣国のそのまた先へ秋落暉 | 田島 三間 | 鍛の手の美しく染めたる秋夕焼 | 木村 信子 |
| 小春日や昇る噴煙おだやかに | 宮川ユキエ | 異常なし病院出れば小春の日 | 財津 早雪 |
| 観るも聴くも遠のく齡文化の日 | 紫藤 祥子 | 青空へ燃え立つ紅葉ほうき草 | 原野レイ子 |
| ささくれる庭に真紅の秋の薔薇 | 曾我 育代 | 柿落葉掃きたる後にまたも散る | 寺尾千代子 |
| お好み焼自家製山芋入れ旨し | 曾我トモ子 | 噴煙は南へ流れ木の葉髪 | 高橋 孝子 |
| 凄雲と朝日を共に噴火口 | 緒方チエ子 | くずの花鉄路の軋む無人駅 | 田中 郁子 |
| 朽ち果てた小屋の囲りの泡立草 | 米山るみ子 | 柿挽きて直に食む児の笑みこぼれ | 北川しんじ |
| 秋麗や庭師と縁に四方話 | 吉田 幸子 | 初紅葉満たせし宙を仰ぎをり | 佐藤 澄世 |
-
- | | |
|-------------------------------|-------|
| 通学の舗道の先に横断旗頭を揃ひて箱に挿し入る | 有久 賢治 |
| 雨前と後に植えたるキャベツとは大きき違う今年の秋は | 梅田 國雄 |
| 公園のバラ誇らしく咲き競う祖国を思わす名前を負いて | 佐藤せい子 |
| 火山灰来たる午後後の光にまどろめばモネの世界が静かに広がる | 田中 成美 |
| 今朝の霜に水木の紅葉みな散りて赤き実のみが青空に映ゆ | 中村トシエ |
| 幾日も真夏日続く秋なれど柿の実一つちぎりて飾る | 馬場 礼子 |
| 公園の空を埋めて日に向かいトンボの群れが描く未来絵 | 松本 東亜 |